



SUPER FORMULA 2024 VERTEX PARTNERS CERUMO • INGING RACE REPORT  
[www.inging.co.jp](http://www.inging.co.jp)

## RACE ARCHIVE

Rd.4 富士スピードウェイ  
FUJI SPEEDWAY

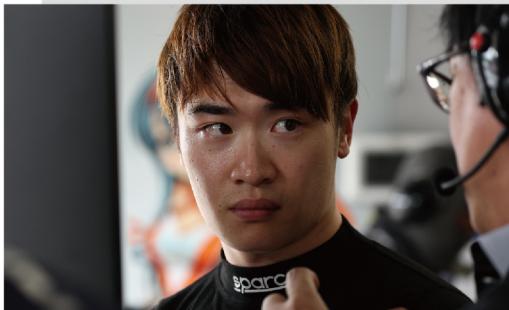
決勝

7月21日(日)  
天候:晴れ  
路面:ドライ

CERUMO・INGING。ただ一方で、12番手につけたものの阪口晴南は相次ぐトラブルに悩まされる一日となってしまった。チームは予選日のうちに阪口の38号車に発生したトラブルをしっかりと特定し対処。大湯は表彰台以降を、そして阪口は12番手からの追い上げを目指すべく、7月21日(日)の決勝日に臨んだ。重要となる燃料を積んだ状態での決勝ペースを確認するべく、まずはフリー走行に臨んだ。決勝日の富士スピードウェイは、朝から晴天に恵まれた。午前9時20分からのフリー走行は気温31度／路面温度39度という暑さのなか行われた。阪口、大湯ともにレースを想定した燃料を積んだ状態でピットアウトし、フィーリングを確認していく。阪口にとってはトラブルがしっかり解消されていることの確認も必要だったが、すぐに状態をチェックすると、3周目には1分25秒791というタイムを記録。その後一度ピットに戻った後、15周を走り10番手につけた。阪口が履いていたタイヤはある程度距離を走ったものだったが、それでも感触は悪くない。ただ、上位陣とはタイム差がややあり、このままでは追い上げが難しくなってしまう。阪口はピークのパフォーマンスを上げるべく、決勝レースに向けてセットアップを詰めていくことになった。一方、土曜のフリー走行と公式予選では素晴らしいスピードをみせていた大湯だったが、2周目には1分25秒970というベストタイムを記録したものの、その後は1分26秒台から27秒台と、いまひとつフィーリングとベースが良くない状況だった。ベストタイムでは14番手と、順位としても厳しい状況だった。もちろん大湯自身もチームもその状況を把握しており、チームにとってはパフォーマンスアップが急務となっていた。改善を目指したセットアップをその後決勝レース前のウォームアップで確認したものの、やはりここでも大湯の感触は良くなかった。いくら予選でスピードをみせても、決勝ペースが悪くては厳しい展開となってしまう。特に富士スピードウェイはオーバーテイクがしやすいコース。チームは決勝レース直前まで2台のセットアップ改善に取り組んだ。

決勝の火蓋が落とされるも  
阪口、トラブルに見舞われる

31,100人という非常に多くのファンを集め、瑠子王殿への挨拶を経て迎えた午後3時03分からの決勝レース。気温32度／路面温度45度という暑さのなか、決勝レースの火蓋が切って落とされた。3番手からスタートした大湯は、2番手スタートの#15岩佐歩夢が遅れたこともあり2番手に浮上。ポールポジションスタートの#8福住仁嶺のテールをうかがう走りをみせていく。しかし、そんな興奮の後方では阪口がトラブルに見舞われてしまっていた。スタートこそ切ることができた阪口だったが、コカ・コーラ・コーナー立ち上がりでスロットルにトラブルを抱え、失速してしまう。トラブルを感じ取った阪口はアドバンコーナー立ち上がりの退避路に車両を止めることになってしまった。VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGの期待は、2番手につける大湯に託されることになった。

託された大湯  
トップを追う

そんなチームの思いを背負って戦う大湯は、1分26秒台のラップでトップを追っていくものの、少しずつそのギャップが広がっていく。さらに後方からは少しずつ3番手の#36坪井翔が接近。13周目にはテール・トゥ・ノーズの戦い

を強いられた。チームは13周を終えると2番手を守っていた大湯をピットに呼び戻し、迅速

な作業でコースに戻すことに成功した。

大湯、トップを  
争う猛走劇へ

#16野尻智紀こそ先行を許したもの、後方から迫った#5牧野任祐のアタックを退けていく。午前のフリー走行ではペースに苦しんでいたが、今回の決勝では、タイヤ交換を行ってしばらくの大湯のペースが良く、17周目のTGRコーナーで#16野尻智紀をオーバーテイク。早めにピットインを行った陣営のなかではトップに浮上することになった。焦点はピットインをレース後半に引張った陣営との位置関係。特にポールポジションスタートの#8福住仁嶺がピットで時間を要したことから、序盤大湯とバトルを展開した#36坪井がライバルとなりそうだった。

首位を走る大湯に  
接近する36号車

#36坪井は28周を終えピットインし、大湯の2台後方でコースに復帰するが、そこからはニュータイヤのグリップを活かし、圧倒的なスピードで大湯に接近していく。32周目には大湯の背後につけると、34周目のコカ・コーラ・コーナーで大湯をオーバーテイクした。2番手となった大湯は最後までトップを追ったものの、最後は7.162秒差の2位でチェックを受けることになった。

大湯、表彰台獲得も  
狙うのはトップの座

VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGにとって、2023年第4戦以来の表彰台となったが、この時とは悔しさの質も違っていた。ベストを尽くしてトップ争いに戻ることができたものの、頂に届くためにはあとわずかな向上が必要だ。チームは次戦もてぎに向かって、さらに歩みを続けていく。

おかげで予想以上の戦いをしてくれたので、その点は良かったと思います。今日得られる最高の順位は得られたのではないでしょうか。トップが見えるなかでの2位なので悔しさはあるものの、それがまたチームを強くしてくれると思います。また今回、阪口選手の38号車にトラブルが相次いでしまいました。ドライバーに申し訳ないと思っています。次戦までにしっかりとチェックして、阪口選手も思いきり走れるようにしたいと思います。暑いなか、ご声援ありがとうございました。

**Results**  
38 阪口 晴南 予選 12位 決勝 リタイア  
39 大湯 都史樹 予選 3位 決勝 2位

TODAY'S RACE Rd.5 MOBILITY RESORT MOTEGI 8.24SAT/25SUN

## INTERVIEW #5

Sena SAKAGUCHI #38

次戦まで  
見直す38号車ドライバー  
阪口 晴南

リー走行ではロン  
グランを試しま  
したが、そこま  
で悪い印象がな  
い状況で終える

ことができました。ただパフォーマン  
スをもっと上げるために、できる範囲  
のことを取り組んで決勝レースに臨み

ましたが、スタートもあまり良いもの  
ではなく、さらにコカ・コーラ・コーナー

に入るところでスロットルが戻らなく

なってしまった。幸い制御によって危険な状況になることは避けられましたが、今回はトラブルが続いてしまいましたね。僕としてはここまで続くと“流れ”ではないと思いますし、第3戦でのクラッシュ後、何か部品がいたずらてしまっている可能性もあると思います。次戦までしっかり見直したいですし、今回の反省を次戦に活かしていきたいと思います。

## 大きな進歩

#39 Toshiki OYU —

39号車ドライバー  
大湯 都史樹

BF

日は予選で3番手

に入ることができます

きましたが、午前のフリー走行、ウォームアップ

とともに決してペースが良いわけではなかったの

で、まいに、と感じていました。しかし決勝

レースに向けてエンジニアの皆さん、チームが

しっかりと改善に取り組んでくれたので、その

おかげで上位に入ることができたと思いま

す。レースを通じて良い戦いができる

だけに、優勝することができます

たのは悔しいですが、こうして表彰

台まで来ることができたのはチー

ムとしても大きな進歩だと思います

ので、これを機に次のレースに向

けても頑張っていきたいと思

ます。今回は移籍して初めての

表彰台だったので、その点は

すごく嬉しいですね。

## 残る悔しさ

— Yuji TACHIKAWA  
チーム監督 立川 祐路

もちろん悔しさが残る大湯選手の2位でしたが、午前のフリー走行での状態があまり良くなかったので、厳しい戦いになるかとは思いましたが、そこからチームと大湯選手の頑張りの

おかげで予想以上の戦いをしてくれたので、その点は良かったと思います。今

得られる最高の順位は得られたのではないでしょうか。トップが見える

なかでの2位なので悔しさはあるものの、それがまたチームを強く

してくれると思います。また今回、阪口選手の38号車にトラブルが相次

いでしまいました。ドライバーに申し訳ないと思っています。次戦まで

にしっかりとチェックして、阪口選手も思いきり走れるようにした

いと思います。暑いなか、ご声援ありがとうございました。